

ID 1008394

努力を惜しまず
輝くベルトをつかみ取る



宇都宮北高等学校
大久保 琉唯さん (3年)

プロフィール

昨年8月に開催されたK-1甲子園2021、同年9月に開催された第11回K-1アマチュア全日本大会で優勝。今年2月に開催されたK-1 WORLD GP 2022 JAPAN 第3代スーパー・バンタム級王座決定トーナメントでプロデビューし初勝利。

昨年8月に東京都で開催されたK-1甲子園2021 高校生日本一決定トーナメント。本大会の55kg以下の階級に大久保琉唯さんが出場し、初出場ながら優勝を果たしました。

K-1甲子園は、高校生キックボクサーの日本一を決める大会で、東日本と西日本の予選トーナメントを勝ち上がった高校生が集い、体重ごとに分かれた階級で戦います。また、プロへの登竜門として知られ、出場者には第一線で活躍する選手が数多く名を連ねます。

大久保さんの出場した55kg以下の階級の出場者は16人で、厳しいトーナメントを3回勝ち上がり、決勝戦に挑みました。決勝戦の相手は、東日本予選トーナメントの決勝で戦った選手。予選では、かなりの接戦で勝利したものの、1度戦ったことのある選手との試合に「トーナメントの中で、1番緊張した」と話します。

試合は序盤から激しい打ち合いになり、大久保さんは強烈な攻めを何度も繰り出しました。しかし、両者譲ることなく、試合の結果は判定に。判定の結果、見事、勝利を収めた大久保さんは、満面の笑みを浮かべ、高々と勝利の拳を突

き上げました。「中学生の頃からK-1甲子園での優勝を目標にしてきた。心に残る大会だった」と振り返ります。また「しっかりと練習ができていたので、自信を持って戦えた」と納得の表情です。

大久保さんは、予選トーナメントで優勝したにもかかわらず「このままではいけない」と練習への意識を高め、本選への準備を重ねました。トーナメントが発表されてからは、過去の試合の動画で対戦する相手を徹底的に研究し、「対戦する選手を意識し、試合の組み立てを考えながら練習した」と、毎朝の10kmのランニングに加え、毎日3時間打ち込みました。

この努力は、K-1甲子園での初出場初優勝という結果だけでなく、その後のアマチュア大会での優勝をも引き寄せ、さらには今年2月に、念願のプロデビューを果たしました。次の目標は「高校生で新たなチャンピオンベルトを巻くこと」と力強く話します。

「プロキックボクサーの父のようになる」と小学1年生でキックボクシングを始めた大久保さん。夢に向かって戦い続けます。努力を惜しまずさらなる高みへ、次なるラウンドのゴングが鳴り響きます。